

# てびねり

二月号 平成22年2月1日発行  
株式会社ゆしま陶助

## 特別展

### 「レオナルド・ダ・ヴィンチー天才の実像」

会期 3月20日～6月17日  
会場 東京国立博物館

本館特別5室・平成館



ルネサンスの巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチの創造世界を紹介する展覧会です。世界に10数点しか現存しない絵画のうち、初期の傑作「受胎告知」を日本での初公開です。「最後の晩餐」に告ぐ大作ですが、保存状態もよく制作当時の画面を今日に伝えています。(国立博物館HP参照)

### 上野東照宮「冬ぼたん展」 2月22日まで 東照宮境内



残り少なくなりましたが、27回目を迎えた「冬ぼたん展」が今年も見事な花を咲かせています。40品種600本が静かに健気に咲くぼたんをご鑑賞ください。

### ◆今月の制作風景

□山田みずほさん  
お玉を入れる器の釉掛け。



□木谷光伸さん  
組皿の形を整え、最近取り組んでいる染付の準備中です。



□原田起久子さん  
家に楕円形のうつわがないので作っています。本科での二つ目の作品になります。



□鉄井理央さん  
最近では会話がはずみ、手が留守の時もあります。今日は真面目にオブジェを製作中。



□中村雅志さん  
湯のみの釉掛けをしている所をパチリ。自然体で何か風格を感じる一枚です。



□吉川富美子さん  
四方皿を制作中ですが、最初丸く作るのちょっと心配！



□岡部厚子さん  
菊花皿の製作中。繊細な削りが写真からも伝わってきます。



□宇都宮裕さん  
いくつもの釉薬を掛け合わせしているので真剣です。



□木村治さん  
お鍋の時の取り鉢を作っています。色は白と黒にするそうです。が斬新でいいですね。



□大竹由城さん  
本科最初の作品作りです。



初級コースご紹介  
□御手洗誠治さん  
新人です。よろしくお願ひします。



### 「親子陶芸」

□草薙博樹さん  
□草薙あすかちゃん(8歳)  
あすかちゃんは、素直で覚えが早くとても上手でした。お父さんもあすかちゃんがあまり鮮やかに作るの、思わず頬がゆるんで見とれています。



### ゆしまかいわい 湯島界限 美味しい店

#### 蘭亭 ぼんど

文京区湯島3-37-1  
電話3831-6203

上野・湯島地区にはとんかつの名店がたくさんありますが、その中で100度の低温で揚げる(油は180度位)白いとんかつが売りのぼんどさんには昔から熱烈なファンが大勢いらっしゃいます。創業から64年余の歴史を誇り、今は3代目の研太郎さんが、ご両親の薫陶を一身に受けてがんばっています。



風情のある<蘭亭ぼんど>正面入口  
写真右の角を曲がると当陶芸倶楽部です。

お肉屋さんが始めたとんかつ屋さんですから素材を見る目は確かです。とんかつだけではなく「タンシチユ」も絶品です。自家製マヨネーズで食べさせるホワイトアスパラも美味しい。お父さんの渡井さん(2代目)は、屋上に大きな「らん」の温室を持っていて、とんかつと同じくらい愛情をそそいで育てており、店名の「蘭亭ぼんど」の由来もここから来ています。



すてきな蘭を背景に  
笑顔の2代目当主。

場所は当ゆしま陶芸倶楽部の一軒となりで、黒門小学校の向かい側になります。お酒も新漉の醸造元から直送のことでしか飲めない珍しいものも揃えています。定休日は毎週月曜日。土日は要予約。陶芸の会員と言えは「らん」も格安で分けてくれますよ。



# 今月の作品

□石川宏さん 「四方形皿」



イギリスの陶芸家ルーシーリーさんの作品を参考に制作。

□中原玲子さん 「片口鉢」



シンプルな形で深みのあるビードロの色が良く出ています。

□宮内美恵子さん 「水盤」



全体にルリ釉、ところどころ白萩釉を吹き付け面白い色に仕上がった水盤です。

□小窪猛さん 「ふた物」



微妙な大小のふた物を口口で見事に作りました。味わいがあります。

□渋谷洋子さん 「お地藏様」



やさしいお顔のお地藏様に安らぎを感じます。織部の着物を着て可愛いですね。

□澤三紀さん 「お茶セット」

白萩を掛けて仕上げました。とても良い色です。形がモダン。



□原田起久子さん 「盛鉢」



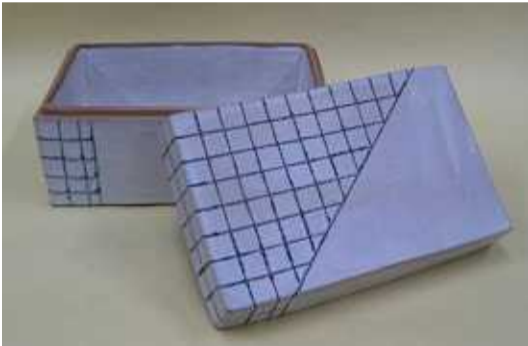
縁が開いた鉢に鉄赤で大胆に刷毛目を入れた勢いを感じる作品です。

□中岡公子さん 「四方重箱」



30センチもある重箱。ふたの彫りも重厚でバランスが取れています。

□武田京子さん 「陶箱」



ぬか漬け用のうつわ。すばらしい出来栄で冷蔵庫に入れてしまうのはもったいない気がします。

□上原由美子さん「ランプシェード」



3個目のランプシェード。削りもうまく、バランスの良い作品になりました。

□渡邊美知子さん 「花器」



透かし彫りをしたカバー付きの花器です。繊細な彫りと釉薬掛けに時間を掛けた力作です。

□吉田利子さん「ランプシェード」



赤土で作り和の柄をデザインしましたので、お友達の還暦のお祝いにピッタリの作品になりました。こちらも力作。

□杉山尚子さん 「タジン鍋」

今話題のモロッコの伝統的な無水蒸し鍋に挑戦しました。形も色も大変よくできました。



□山田みずほさん「グラタン鉢」



黄瀬戸に透明釉を掛けすっきりした仕上がりになりました。土鍋の土なので鍋として直火で使えます。

□石田純子さん 「ふた物」



本物の柿のようなふた物が完成。特に蓋のヘタの所が筆塗りをして枯れた感じが出ています。

## 見た事・聞いた事・読んだ事

### 高齢者の運転

昨年運転免許の書き換え前に70歳以上のドライバーに義務付けられている「高齢者運転講習」を受けるようにと連絡があり出かけて来ました。高齢者の運転が原因で起きた昨年の人身事故が全国で8万9千件もあり、十年間で3倍近くに膨らんでおり、最近では高速道路を逆走したり、ブレーキとアクセルを踏み間違え建物に突っ込んだり、人をなぎ倒したりする事故は決まって高齢者なので、免許を更新する前に講習を受けてもらうという事になりました。

講習は学科、模擬運転、視力検査、のほかに実際に車に乗り、車庫入れ、S字走行などの検査もあり、約3時間の講習でした。講習の前に「運転免許証は返上することが出来ます」などと説明され、何か厄介者扱いされているような雰囲気があり、あまり気持ちの良いものではありませんでした。

お年寄り相手の毒舌で知られる毒嬢三太夫さん(73歳)が「高齢者の運転を制限すべきだ」との意見があることを知ると「年寄りから車の運転を取り上げたら、世の中、元気の無いジジイとババアばかりになっちゃうじゃないか」とまくしたてたそうです。ご本人は気が向くと深夜でもドライブに繰り出すほどの運転好き。同じ高齢者でもたまにしか運転しない人と、一緒にしないでくれ、ということなのでしょう。しかし、加齢に伴う体の機能の低下は自助努力で抑え切れるものではありません。毒嬢三太夫さんも「危なっかしい運転をするようになって、周りから忠告されたら、おれは素直に運転はやめる」と言っています。

私も年間2万キロは乗る運転好きですが、最近「スピードは出さない」「夜間は運転しない」「疲れたら休憩する」の3つを守って安全運転を心がけています。しかしそれは若い人から見るとダメなのでしょう。最近よく割り込みをされることになりました。(佐藤)